

## ‘地元へ帰ろう’基礎講座 授業概要

文責 田無スマイル大学 富沢木実

### 2日目 (12月22日)

#### 先輩の話を聞いてみよう (2)

この日は、次の3人の先輩たちのお話をうかがいました。

1. 水井高志さん (NPO 法人西東京花の会)
2. 池田千城さん (西原自然公園を育成する会ほか)
3. 青山恭彦さん (きらっとシニア倶楽部ほか)

水井さん、池田さんは、地域での活動が長い方々。青山さんは、はじめてまだ数年の方。それぞれ地域への係り方にも特徴があって、大変興味深かったです。(私の技術レベルの問題から、ワープロと写真がずれるので、一つひとつのファイルにします。)

#### 2. 池田千城 (たてき) さん (西原自然公園を育成する会ほか)

(ア) リタイアに不安なかった

- 自分は、現在 79 歳、オリンピックの年に田無に引っ越してきたので 50 年くらいになる。退職して 18 年。42 年勤めたのだが、42.195 キロと同じ数字になるようにして辞めた。辞める時の不安感は全くなかった。というのは、それまでに自治会など地域のことに係ってきたから。
- 50 年前に西原のあたりは、まだガスも水道も下水道もなく、道も雨が降るとぬかるんで大変だった。自治会がないと困る状態だったので 10 軒くらいで自治会を作って活動した。
- まだ勤めているときに、公民館で「自由民権運動についての講座」があり、興味があったため受けた。木曜 19 時からだったので、その日だけは、一生懸命早く退社するようにした。講座自体が終わってからも、仲間と自主講座を 4~5 年続けた。
- そんなこともあって、地元のことにも関心が湧き、田無の道を全部自転車で走ってやろうと思った。「ディスカバー近所」という名前で、ちょうど『東興通信』(昔あったタウン誌) に連載を書かないかということもあって、コラム



を書くことになった。それで、どこに行っても、ああ、『東興通信』に書いて  
いる池田さんねと、いろいろな人から声かけされた。

- このように、退職前から地域と接点を持っていたので、退職後の不安感とい  
うのは、ほとんどなかった。

#### (イ) 現在やっていること

- 自分が今やっているのは、「環境」に関すること。ゴミに関することを2つや  
っている。ひとつは、「多摩全体のゴミに関する団体」で、その黄色のパンフ  
は、ゴミ問題についてとことん議論したものを私が編集して冊子にした。も  
う一つは、「おちゃわんリサイクル」でそれが発展して「ごみ資源化市民会議」  
となっている。不要な茶碗を集めて、多治見に送り、粘土に戻している。
- もう一つは、緑に関するもので、「武蔵野の雑木林の若返り」（西原自然公園  
を育成する会）は、13年続けており、2013年に東京都公園協会賞を受賞した。  
これまで長い間やってきた  
のが、急に注目されること  
になった。こちらは30人  
くらいでやっている。
- また、20年間、大気汚染の  
記録を取っている。年に2  
回カプセルを24時間取り  
付けて、NO<sub>2</sub>の濃度を測  
る。東京都が1万2000ヶ  
所やっていて、西東京では、  
300ヶ所近くを50人ほどでやっている。
- こんな流れのなかで、消費者団体に誘われて、これも、多摩地域全体のと、  
西東京のと、両方やっている。去年は、古紙について取り上げ、今年は、レ  
ジ袋の有料化を訴えようとしている。韓国、台湾、中国では、国がレジ袋を  
有料化している。日本は自治体任せにしている。消費生活展と柳沢公民館で  
アンケートを実施したら、80%が有料化に賛成、残りの20%は「有料化がい  
いという人がいるの？」という反応。毎年市内の20のスーパーの店頭で調査  
をしているが、買い物袋を持参している人が50%もいる。23区内では30%。  
これを全部なくせば、1年ドラム缶279万本分の石油が浮いてくる。



#### (ウ) 「協働」について

- 芝久保公民館が昨年30周年だったので、今日お持ちしたそこにある本を手作  
りで製本した。最初の頃は、パソコンで原稿を書く程度だったがついに製本

までやれるようになった。

- 自分がやっていることは、いろいろだが、共通点は、市とつながっていること。市の活動の一部を引き受けているという気持ち。市の受託というのではなく、たとえば、その公民館30周年記念誌は、紙だけは用意してもらって、糊とか道具とか労力とかは私たち。「協働」という言葉が流行っているが、行政と契約をしたから「協働」ではない。自分たちがやる必要を感じたら（やりたいと思ったら）お金も労力も出すというものだと考えている。
- 西原の活動も、太い木を切って、若い木を植える。切るのは市の予算で20本ずつ切る。あとの苗を育て、植え、草刈などの管理をする、これは自分たちでやる。お金も市に依存しないで、どこかの助成団体を探してやる。やってあげていると思うと続かない。
- お茶碗リサイクルも、当初は、お茶碗を多治見に送る送料は、自分たちのお金でやっていた。しかし、これでは続かないので、集まったお茶碗を欲しいという人がいるので、その人たちから30円カンパしてもらうことにした。毎回300個で9000円くらい集まるので、それでリユースもでき、段ボール箱を20ヶほど送る費用も捻出できた。市のごみ減量課の担当者が（コストについて）心配してくれてはいるが、でも予算化してくれているわけではない。



#### (エ) なんでもようになったのか（地域デビューしたのか）

- いろいろやっているが「環境」からは出ないようにしている。手一杯なので。女房は、カレンダーを見ないと私がどこに行っているか分からない。家に居るときは、パソコンで資料づくりなどをしている。「忙しくていいなあ」と自分では思っている。
- 18年間やってきて、300人を超える知り合いが出来、行政にも50人くらい知り合いが出来た。お蔭でいろいろなことをやりやすい。
- 私の場合、リタイアして2~3ヶ月後、たまたま、図書館で働く人を募集していたので、採用され、4年くらい働いた。これは、週に4日くらいだったのでちょうど良くソフトランディングできた。
- 市民活動のきっかけは、市報に「アースディ」のことが載っていて参加者を

募集していたので、行ってみたところ、16~7年前はまだ男性が珍しく、歓迎してもらった。宮崎さんという方がゴミ問題に取り組んでおられて、ゴミを埋め立てる場所がないなどと言っていた。自分は、会社に居る頃には、ゴミなど気楽に捨てていたのだが、そういう問題があるのかと気づかされ、ゴミの分別のために「分別クイズ」などつくってやったりした。

- そんなことをしていたら、排気ガスを測定している人や消費者団体の人から誘われるようになった。何か1つやると、芋づる式にいろいろな人から誘われるようになった。西原の自然もそうだ。問題は、地域に「一歩踏み出す」ことが大事で、それさえすれば活動が広がる。

- 自分は、会社に居たころ、営業の仕事をしていた。新商品が生まれると、それを宣伝し、展示会をやり、客に見てもらうにはどうしたらよいか工夫する。

今地域でやっていることは、まったくこれと同じだ。何かを企画し、知ってもらうためにチラシを作り、人を呼んで、来た人を楽しませる。発信する、人を呼び込む。ある意味、会社でやっていた仕事と同じだ。女房からも「同じことをやるね」と言われている。



- もう一つ、喜ばれたのは、退職直前に誕生したマックのパソコンを30万円で購入し活用した。それまで手作業でやっていたことをあっという間にグラフにしたり、高い順にしたり出来るようになったこと。この技術で先の大気汚染の測定の人たちからも喜ばれた。
- 会社でやっていた何かはどこかで生きてくる、役に立つ。ともかく、地域での活動は、どこかにつながればよい。
- 西原の雑木林の作業は、肉体労働。20本大きな木を伐り、80本植樹する。下草刈りをする。とっつきにくい仕事だが、畑をやっている人（市民農場など借りて）は、植物を育てることが好きなので、苗木を育てるのも好きなようだ。自然の中で身体を動かし、木が育っていくのがうれしい。メンバーは真面目な人が多く、肉体労働した後にもビールではなく、お茶で楽しむ。
- 興味を持てることで楽しみを持てば、広がっていく。アースディでは、子どもを遊ばせるため、それまでのこぎりで木を切らせていたが、木を一日中抑えるのが大変で、今年はトライアスロンに変えた。鋸切りのあと三輪車に乗りランで戻ってくるというのをやった。いこいの森公園のどこでやるかとい

うことで行政の公園課と相談しながらやった。行政の公園課の部長が会場となる場所の下草刈りをしてくれていた。こんな風に、こちらの姿勢を見せて、市が協力してくれるという「協働」がやれている。

(オ) 何故続いているのか

- 一緒にやっている人が皆同じ思いでやっているかどうか分からないが、自分がこういうことをやっているのは、「自分の住んでいる町を住みよくするには、自分たちが動かなくては」という気持ちがあるから。自分の好きなことをやり、こうしたことをやった方が町も良くなり、住みやすくなると思うから。
- ゴミの有料化、レジ袋の有料化を薦めているのも、ゴミ処理代が減れば、税金の使用法が自分たちにとって良くなると思うからだ。レジ袋分で 300 トン減ると、3000 万円の処理費が減る。ゴミ処理に 30 億円かかっているのだから。
- 行政からお金をぶんどるという形ではなく、ここに住んでいる限り、市に無駄な経費を使わせない…住んでいる人にとって、大切な福祉や教育の予算に回せる…こういう考えが活動の柱になると思っている。

(カ) より良くやりたい

- 今年の芝久保公民館祭りでスタンプラリーをやった。出展しているサークルを回って、スタンプを押してきたらクイズができて抽選もできる。参加サークルから子供向けの景品を集めた。
- 同じく公民館まつりで 5 年前からはお茶碗リサイクルをしてきたが、大震災があった年には、バザーをやった。皆に良いものを出してもらい、1000 円ほどで売り、10 万円を得て、福島県の新地町に復興支援として届けた。次の年には新地町の公民館から、そこで作った手芸品などをこちらで販売して欲しいという要請がくるようなつながりが生まれている。
- 今までと同じところに満足せず、プレッシャーを感じながらも新しいことに挑戦して行くのも、男性の役割と思っている。
- 会社で培ったノウハウは、地域でも何かしら役に立つ。同じやるなら、来た人が皆喜ぶようにいろいろ考える。何かしらプラス  $\alpha$  を加える。会社人間の発想で、考えることも、男性が地元で活動できる一つの方法。
- NPO は、求めるものは一つでも、参加している人の価値観はいろいろ。私のボランティアの考え方はルーズ。せっかく組織を離れたのだから「やりたいからやる」だ。西原も 30 人くらい加盟しているが、出てくる人は 15 人くらい。出てきてくれとは言わない。進んで出てくる人がやればよい。無理して出ていくと楽しくない。

- 出てきた人がやれる範囲のことをやればよい。やれる範囲は人によって大小ある。出来る範囲のことをやればよい。作業に支障が起きない範囲なら、それぞれのペースが大事。西原の場合、毎年2～3人ずつ新しい人が入ってくる（毎年4～5人入って2～3人残るといった感じだ）。辞める人もいるが、それは他でも活動している人で忙しくてやめる。だから、ヨコに知り合いが増える。
- 今年、芝久保公民館で雑木林のことを知ってもらう講座をやった。雑木林というのは人工林、江戸時代に村が出来て作られたもの。今ほとんど無くなってしまっており、残したいと思っている。受講生には、林と花をみてもらった。今この花が咲いている、1ヶ月後に行ってみるともうその花は無くて、別の花が咲いている。木を植えて1～2年は花が咲くが、数年経って樹が茂ると花が咲かなくなる。そういう自然は変化しているということを実感してもらった。育てるといえることは、そういう自然の変化を感じる。
- 今まで、作業や行動をしていることが成果であると思っていたが、この次に必要なのは、その意味を多くの人に知ってもらうことが大事、と考えるようになってきた。

(キ) 受講生より感想

- 自分は、西東京に越してきて1年ちょっと。西原のグリーンハイツに決めたのは、公園があって緑がよかったから。それを守っている人に会えて感動した。